

溶接作業の練習をする久留米工大の阿部奈月さん（手前）。
後輩たちも「先輩越え」を目指す



19歳溶接女子

久留米工大・阿部さん

“職人”検定に合格

久留米工業大（福岡県久留米市）2年生の阿部奈月さん（19）が、溶接技能の検定資格で最上位の試験に合格した。専門の職人が受験するレベルとされ、日本溶接協会によると現役女子学生の合格は前例がないという。学内では“溶接女子”たちが競い合うように腕を磨いており、レベルが上昇中。さらに上位の検定にも挑もうとしている。

（布谷真基）

後輩と腕磨き 挑戦さらに

阿部さんが合格したの 属を加工する際に用いられる手法で、作業時に火花が飛び、仕上がりの美しさの定の中でも最上級とされる が特徴という。

ステンレス製パイプの溶接 普通科の高校を卒業した 阿部さん。大学1年の夏休

みにインターンシップ（職場体験）で久留米市内の溶接工場へ。それまでは道具に触れたこともなかった。のめり込んだのはその後、工場でアルバイトを始めてから。工場は大学で習っている湖上貴之非常勤講師の勤務先でもあり、「作業姿が格好良かった。私もあになりたいと思った」と話す。それからは放課後はもちろん、授業の合間を縫って溶接訓練に励む日々。作業服も板についてきた。時間があればひたすら金属に向き合うことで、めきめきと上達。だが、検定試験を控えた今年2月ごろ、手先の感覚に違和感を覚え、何も手に付かなくなるスランプに陥ってしまった。

「もうやめれ！」。作業場に、湖上さんの叱責が飛んだ。顔に防具を着用したまま、阿部さんの頬には涙が伝った。しかし、一緒に腕を磨いてきた同級生や後輩たちへのライバル心が支えになった。「あの子たちには負けたくない」と、強い心を持ち続けることで乗り切れたという。

溶接を始めたころ、床に座って作業をするときは内股だったが、最近では気にしない。男性が多い周りに合わせ「堂々と」振る舞っている。その一方で、真っ赤なマニキュアが目を引き。「勝負ごとの時には赤い物を身につけるようにしています」。髪を束ねるシチュも赤色を愛用している。

後輩たちの成長も著しい。1年生の角田楓さん（19）と大神優佳さん（18）はともに工業高出身で溶接の経験者。「今は阿部さんの足元にも及ばなくて追いかける側だけど、必ず並んでみせる」。いつか先輩を越えようと、2人は対抗心を燃やしている。

すでにプロ級の技術力を持つ阿部さんは、より難易度の高いアルミニウム製パイプの溶接試験に向けて鍛錬の日々を送っている。「将来は何でもこなせる溶接屋になるのが夢」と阿部さん。溶接女子たちの戦いは、久留米の地でますます熱を帯びている。

